

# 人間を読む―ファンタジーの読み方を漢文学習に

●広島大学附属中・高等学校教諭

## 岡本恵子

(おかもと・けいこ)

ファンタジーがブームである。「ハリー・ポッター」「ロード・オブ・ザ・リング」映画・原作ともに好評で、書店にはコーナーもできている。何にせよ、子どもたちが活字に親しむきっかけになるなら歓迎したい。それにして、何が子どもたちを惹きつけるのか、分析は他に譲るとして、やはり主人公が危機を乗り越えての冒険物語ということであろうか。

図書室を担当するたびに思うことの一つが、ファンタジーの根強い人気である。特に中学生、とりわけ女子に熱烈なファンが少なくない。やがて、高校生になるとファンタジーは卒業。ところが、「ロード・オブ・ザ・リング」の原作「指輪物語」については、やや趣が異なる。男女を問わず、高校生の関心が高いのである。

言うまでもなく「指輪物語」は、五十年近く前に発行されて以来の息の長い作品で、日本でも長く読み継がれてきた。ブームは今更の観もあるが、実際のところ、従来、第一部で読破を諦めた人も多かったのではないかと。ところが今、読破する生徒が増えているように見える。

記憶の底にこんなコピーがある、「読んでから見るか、見てから読むか」。映画で大枠が理解できているから読みやすいのかも知れない。

また、非日常の世界が舞台であることで、逆にすんなり入っていきけるようである。加えて、登場人物の多さも魅力の一つで、それぞれにお気に入りの人物があるらしい。

それにしても、と改めて思う、これはそのまま漢文教材、とりわけ史話に当てはまるのではないだろうか。史話はファンタジーではない。しかし、「指輪物語」も歴史物語の態をとっているのではないか。

そこで今回高校一年生で「臥薪嘗胆」(十八史略)を学習するに際し、思い切って歴史物語として楽しむことにした。すなわち、子どもたちがファンタジーを読むのに倣って読むのである。そのため、次の三点に留意した。

- 1 登場人物を整理して示す。
- 2 全体像の把握を早い段階で行う。
- 3 数名の人物を選び、個々の心情に迫る。

ファンタジーには人物紹介と地図がある。登場人物が複数の名を持つことも多いが、子どもたちは予め人物紹介を見、また確認しながら読むため、混乱がない。漢文でも、字や出身、地位等、登場人物に関する情報を予め人物紹介としてノート（あるいはプリント）に整理し、その動きが書き込める地図を用意しておくこと後の理解の助けになるのではないかと考えた。

次に、映画から原作に入るのに倣って、ストーリーの把握をまず行う。段落毎に少ない情報から考えるよりも、場面や心情の変化にも気づきやすいし、比較対照によって理解も容易になるのではなからうか。

その上で、人物を絞り、心情を追う。映画でもクローズアップされた数名の登場人物を観客は追い、感情移入しているように。

あくまで日常の授業の中での工夫を模索している。学習の実際を、以下簡単に紹介する。

(二〇〇三年二月実施)

#### 【第一時】

- 1 リード文、地図から呉越両国の関係を理解する。
- 2 呉・越それぞれの人物が対照できるように図示し、随時説明を書き込めるよう準備する。
- 3 訓読の確認と練習。
- 4 伍員についての説明部分を理解し、地図に書きこむ。

#### 【第二時】

- 1 全体を時間で分け「だれが」「どうした」「どこで」を確認、地図に書き込み、ストーリーをつかむ。
- 2 疑問点を出し合い、人物の心情理解につながるものは絞り込んで残し、それ以外は解決する。
- 3 書き下し文（家庭学習）を相互に添削。疑問は全体で検討、解決する。時間の許す限り音読練習。

#### 【第三・四時】

- 1 人物の行動とその心情を考える。
  - ① 伍員も范蠡もともに「不可」という。なぜ彼らはそう考えたのか。
  - ② 伍員の主張に従わなかった夫差と、范蠡に従

つた句踐を比較し、それぞれについて理由を  
考える。

③ 夫差から剣を賜った伍員の心情を考える。

④ 呉人が憐れんだのはどういう点か。また、なぜか。

⑤ 死を迎えるに当たつての夫差の心情を考える。

2 どの人物がどういう点で心に残るか、ノートに  
記述し、発表準備をする。

3 音読練習。「乃」の働きを意識して音読する。

書かれていることの指摘で満足させてはならない。このとき、たとえば②の問いに際してこう尋ねる、「窮鳥懐に入らば……ということわざもある。あなたなら、相手をはねつけることができるか」と。

こういう問いかけが大切なのではないか。時空を超えて、自分がそのときその立場だったら、と考えることで、生徒はより深く問いと向き合うことになる。そして自ら夫差の中に勝者の驕りと誰もが持つ人間らしい甘さを見いだす。その時初めて「臥薪」「嘗胆」の必然性が理解できるのである。

また、たとえば④で、「あなたが呉の人であったとし

て、他国者の伍員のために、祠をつくるなどするだろうか」と問いかける。すると生徒たちは再び伍員の足跡をたどり始め、③に立ち返って「わかった」と口にする。こうして初めて③についても腑に落ちるのである。

こういうとき生徒は「どうして漢文なんか勉強するのか」などとは口にしない。今回は最後の発表時間が持てなかったことが悔やまれる。漢文に苦手意識の強い生徒も、こと人物については一言あったらしい。授業後にあれこれ聞こえた人物評を全体のものにできなかつたことが惜しまれる。

漢文の授業時間は減少の一端という現実の中で、それでも、漢文のおもしろさだけは伝えたいと、有志が毎月本校に集まって漢文教育研究会を開いている。今年度は史伝についての過去の事例研究も始めた。工夫の跡から学ぶことは多い。そしてますます漢文はおもしろい、と思う。漢文を読むことは紛れもなく人間を読むことである。史話に限らず、漢文には凝縮された人間の姿や知恵を見ることができると。

漢文でしか学べないこともあるのではないか。第一、日本文化を陰に陽に支え続けたのは、漢文ではなかったか。ファンタジーに心踊らせる子どもたちに、漢文の楽しさを伝えたい。